

謝

罪

の

暴

君



謝

罪

の

暴

君



SORRY.MY DEAR

FATE / GRAND ORDER
UNOFFICIAL FANBOOK

RYOMA SAKAMOTO (RIDER)
x
IZOU OKADA (ASSASSIN)



諸注意

※18歳以下の方の閲覧・購読を禁じます。

※捏造設定を多々含みます。

※なるべく調べましたが、エセ土佐弁です。申し訳ございません。

※死姦・モブ姦・モブによる強姦要素を含みます。

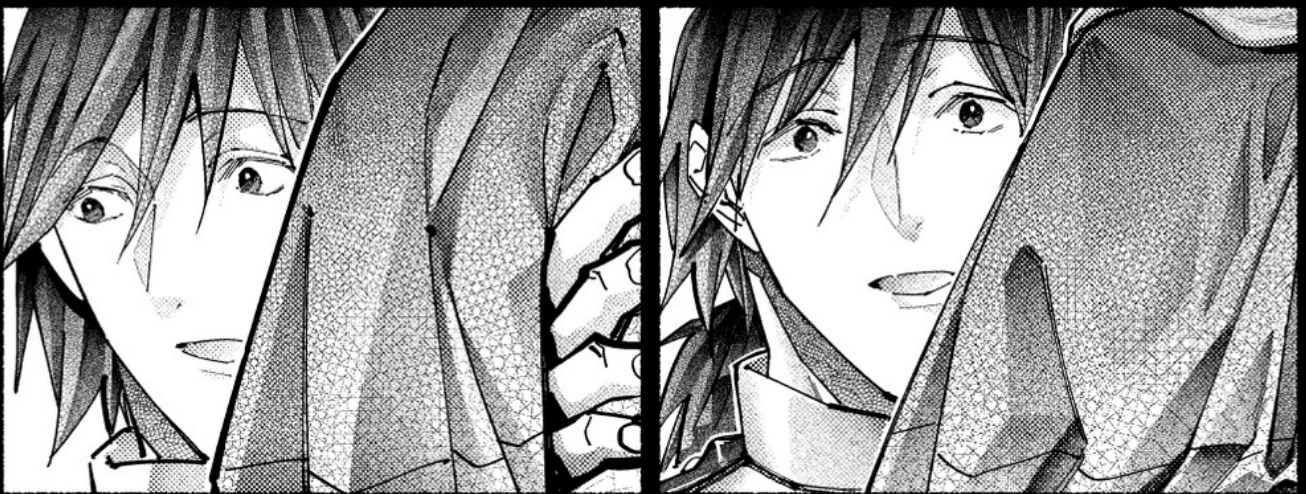
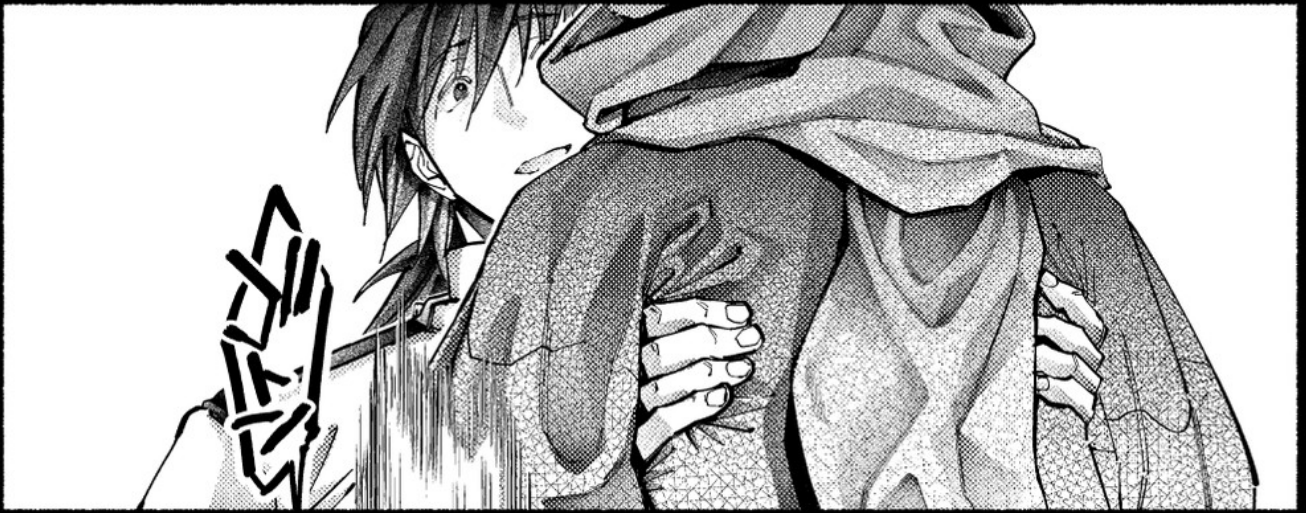
※以蔵さんがだいぶデレています。

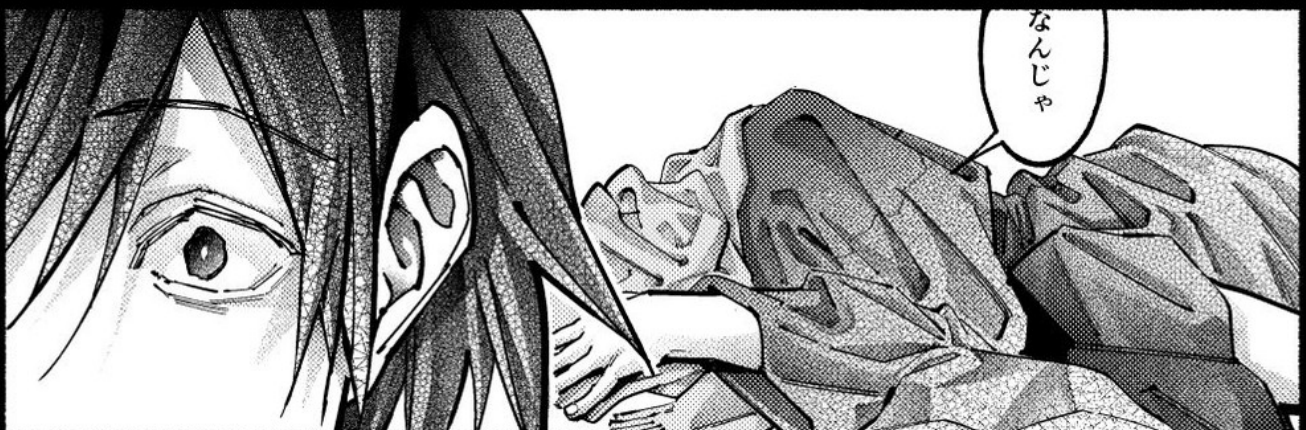
以上、問題ない方は、どうかお楽しみいただければ幸いです。













穴っぼこが
空きゆうんは
こっちじやき

用事があるんは
こっちでは
ないんかの？



ほれ
どっちが
えいんじや
龍馬

ほうか
ほうかア

両方
ほしいか
……

龍馬は
末の子オ
やき……

昔っから
甘えんぼう
じやったの
……



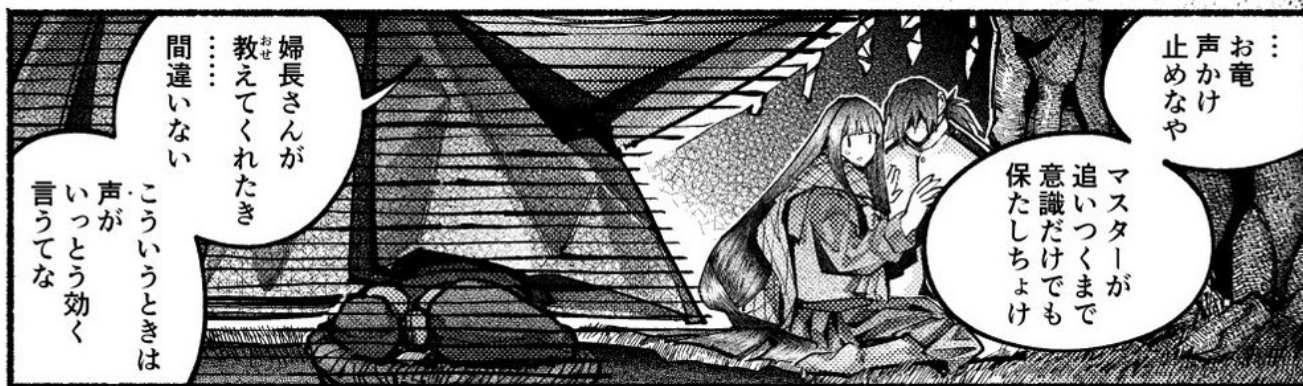
ほんだら
両方
くれたろな
龍馬

昔 こっそり
わしのお八つ
やったとき
みたいに

へたくそに
えいよ
たら

あんとき
わしの
とき
みたいに……

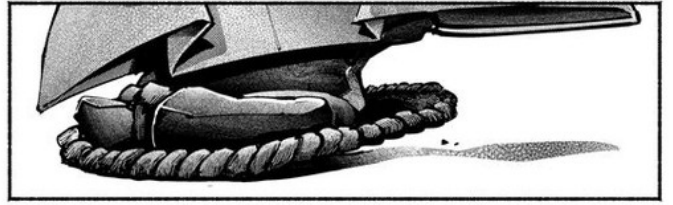
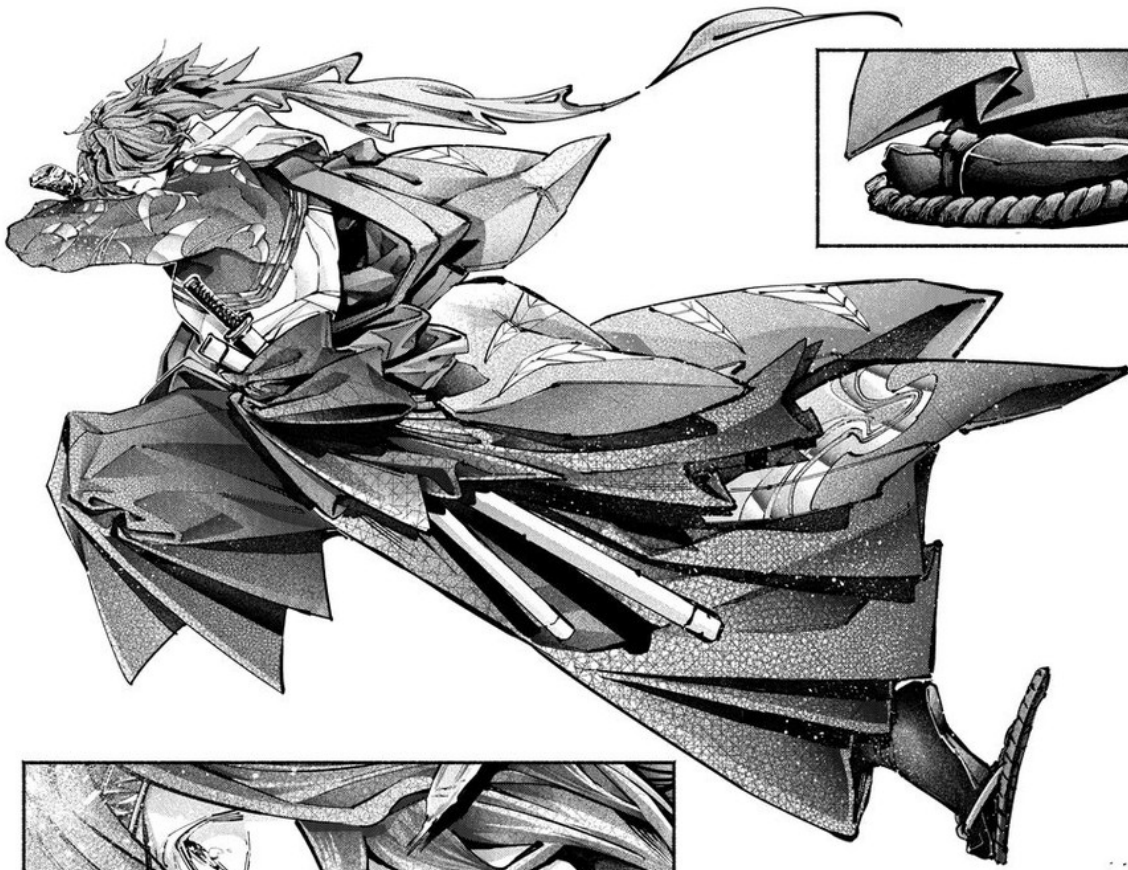






A black and white manga-style illustration. A character with long, dark hair, wearing a dark, ruffled dress and a headscarf, is shown from the back, looking up at a large, jagged, and skeletal structure. The structure appears to be a giant skull or a collection of bones, with a large, open mouth-like opening in the center. The character's expression is one of awe or shock. The background is dark and textured, suggesting a cave or a night sky. The overall style is dramatic and horror-themed.

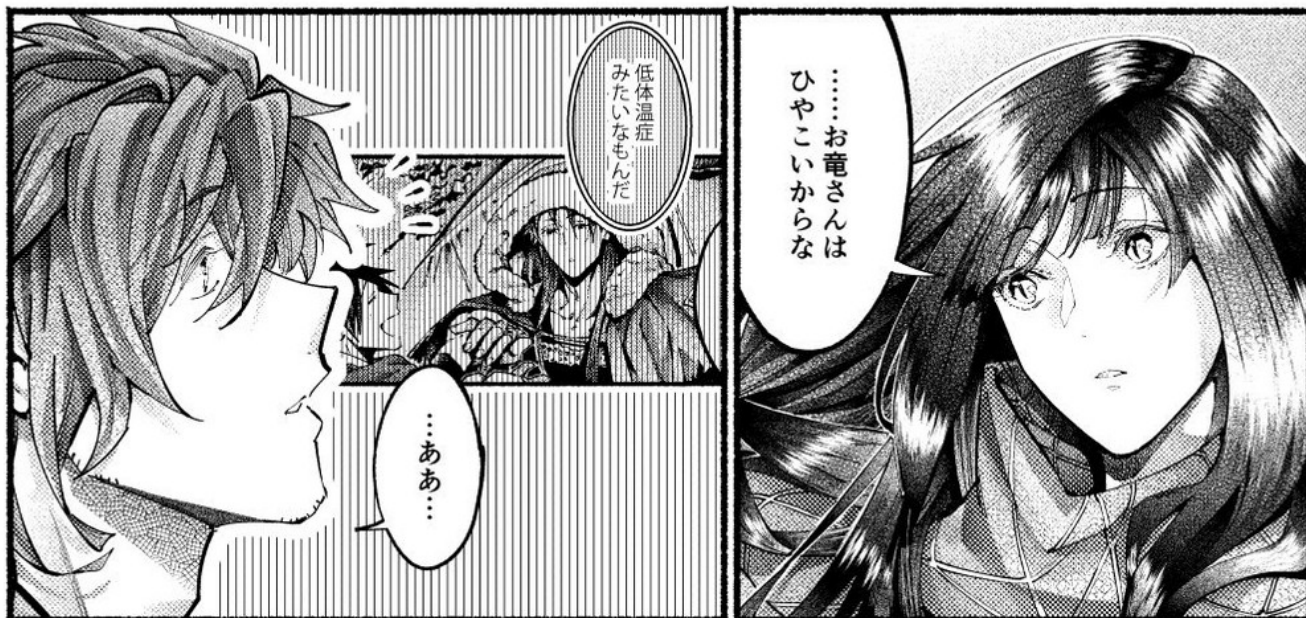
や・っ・て・く・れ・た・の・う・…!!

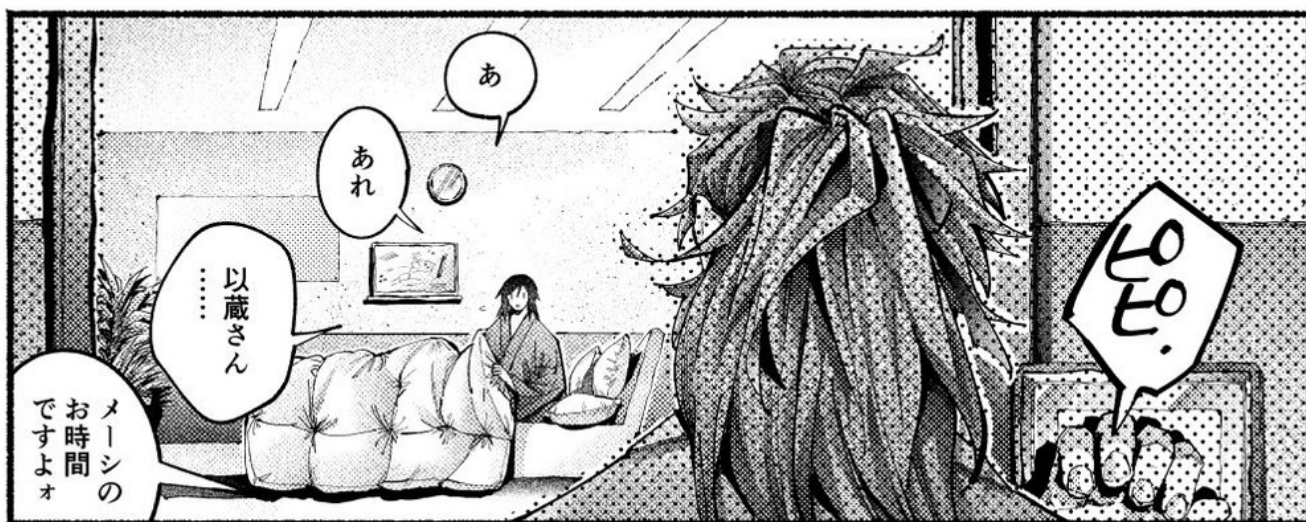














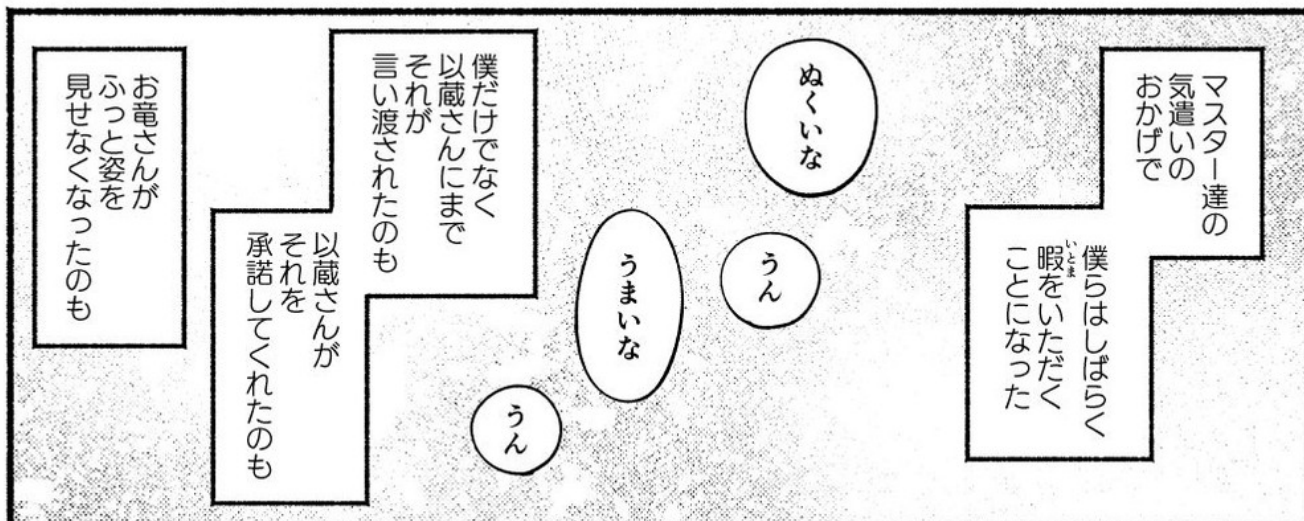
食堂じゃと
これが
出来ん

エミヤの
兄ちゃん
は
目がえいきの

栄養摂っとけ
龍馬



以蔵さんは
やさしい



マスター達の
気遣いの
おかげで

僕はしばらく
暇をいただく
ことになった

ぬくいな

うん

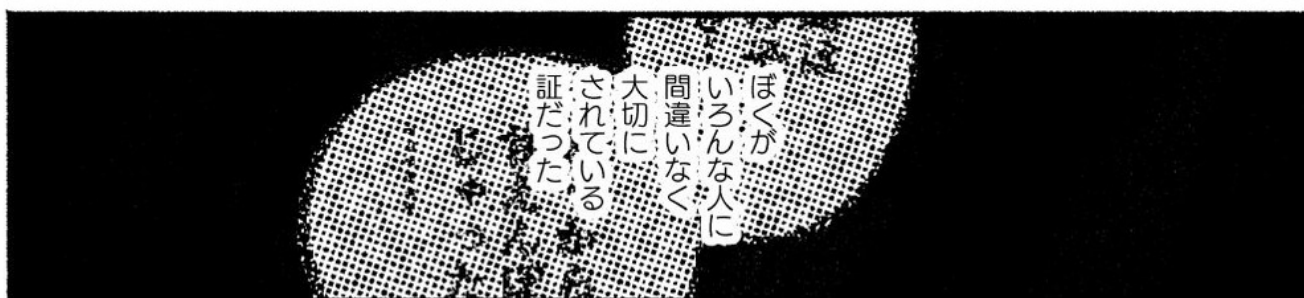
うまいな

うん

僕だけでなく
以蔵さんにまで
それが
言い渡されたのも

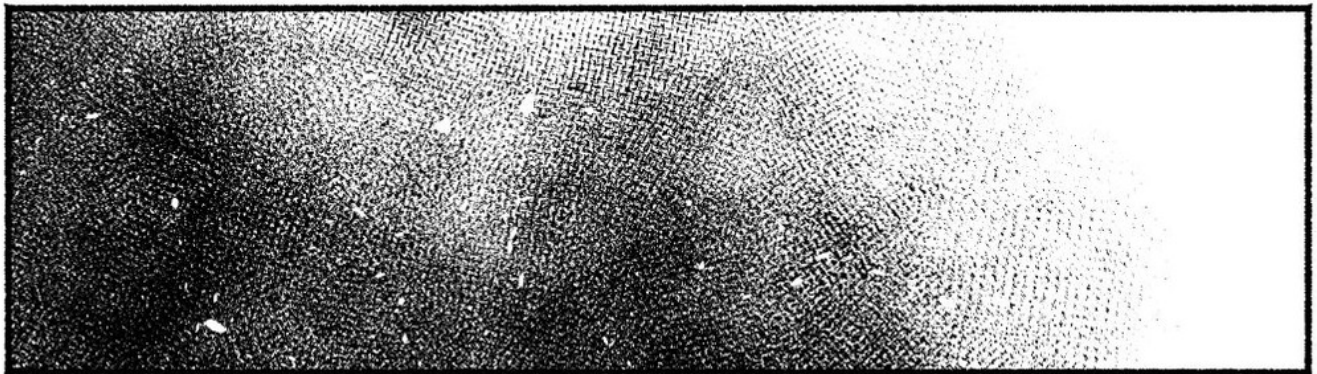
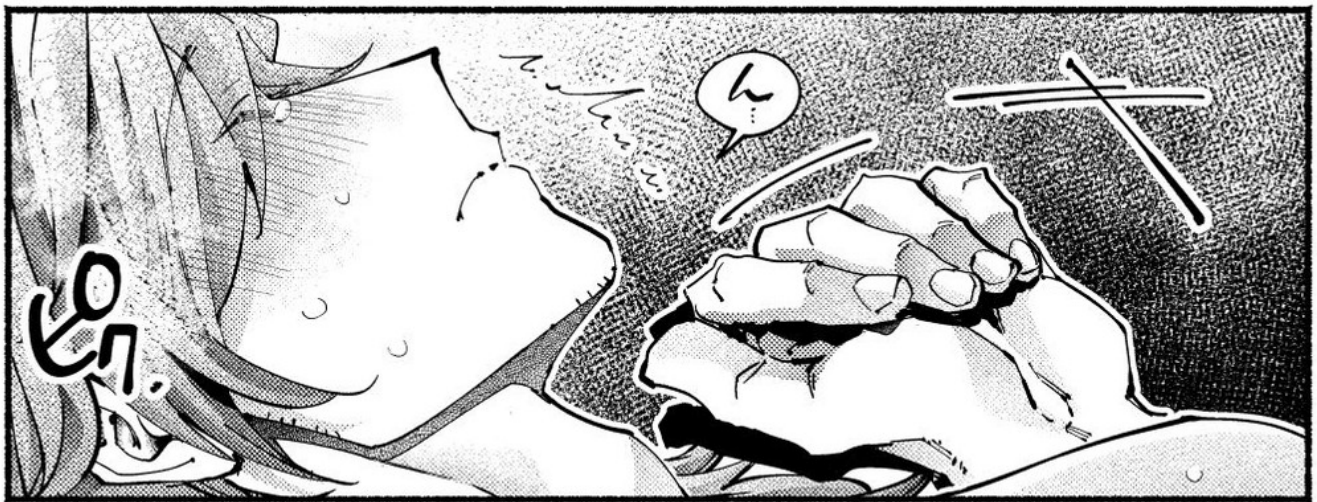
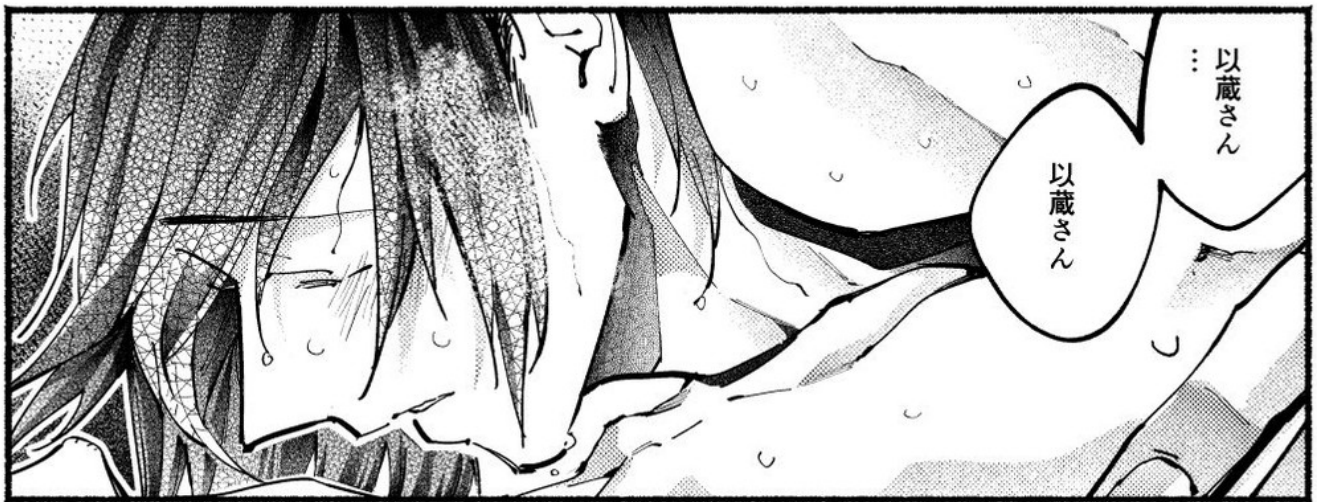
以蔵さんが
それを
承諾してくれたのも

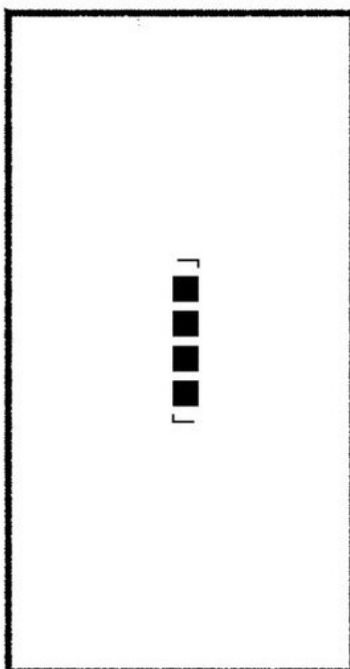
お竜さんが
ふつと姿を
見せなくなったのも



ぼくが
いろんな人に
間違いなく
大切に
されている
証だった







以蔵さんも



龍馬……
おまん……

わしに……
まだ……
なんぞ……

謝らな
いかんことが
あるんじやな……









これが、懺悔^{ざんげ}のために与えられた時間であることを。



……
？

龍馬……

おまん

なんで……

そんな
泣きゆづ……

かわいそうに……

よしよし……
えい子じゃき
泣きなや？

あとでこっそり
饅頭
くれたらな？

なんでじゃろうなあ……
声が聞こえん

……
夢……

……
やき……

……
じゃから……

聞こえんの
かなあ……？

……
ゆめ……？



夢を見ない





……
リョーマは
このことについて

お竜さんに
秘密に
しているからな

お竜さんの
口からは
とても言えない

だけど
お前は

リョーマの
惚れている
ヤツだから

トクベツに
少しだけだ

だけどやっぱり
『秘密』だから

やっぱり
本当に
少しだけだ

あの日

お竜さんが
見て、聞いた、
その事実だけ
話す

ある日、
ある手紙が来た

手紙を読んだ
リヨーマは泣いた

「ぼくは あの子の
笑顔がいつも
好きだった」

「みんなが笑って
くれればと思って
がんばってきた」

「今までも
これからも
そうしていく」

「ただ、いつも
笑っていてほしかった
初恋の子が」

拷問されて
殺されたと

「どうか、」

「ある場所に
連れて行って
ほしい」

泣き腫らした目だった

リヨーマの
頼みだ

当たり前に
連れて行った

全速力だった

そこで
リヨーマは

ある物を
盗んだ

ある物を
掘り起こした





お竜さんは
リヨーマを
守らなけりや
ならない

だから
小屋が見える
少し離れた
ところで待った



静かな
夜だった

物音が
していた

リヨーマの
声がかすかに
聞こえた



「うまく
いかないよ」
と……

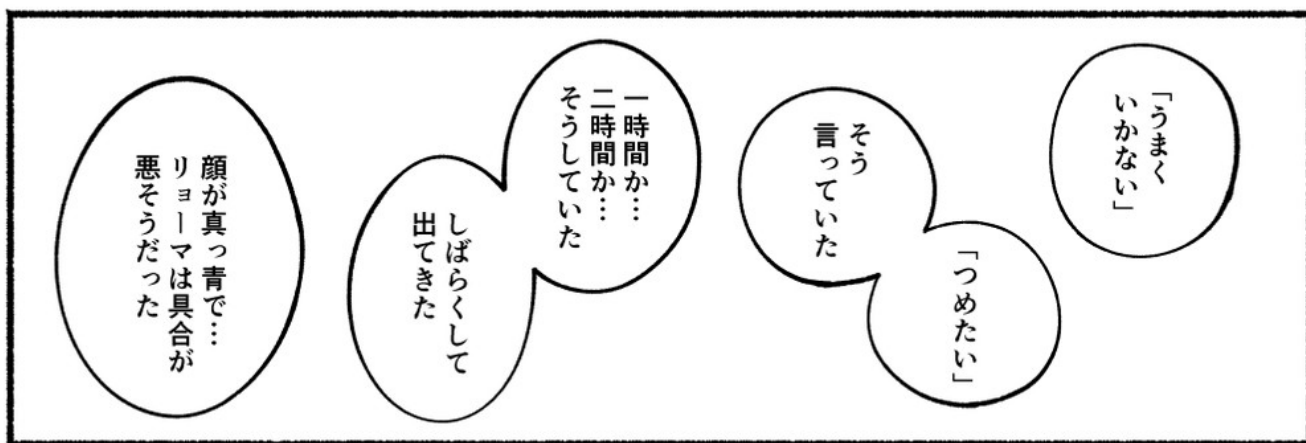


泣いて
いたから……

そばにいて
やりたかった
が……

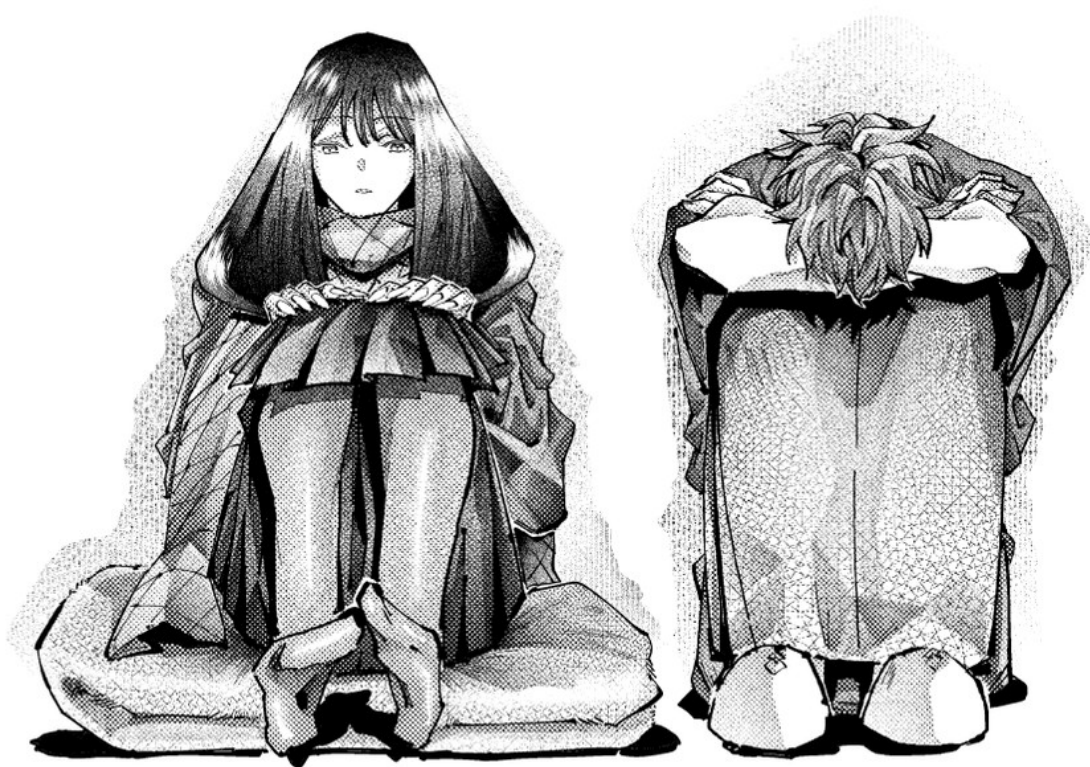
入って来ないで
ほしいと
お願いされて
いたから

できなかった



謝ることさえ
許されないと

一言
そう言った



違和感はあった

確かに よく笑う
男だった

こんなにも、意味もなく
こんなにも、
まるで、義務みたいに

へらへらとする
奴だっただろうか？

こんなにも、まるで、
口癖みたいに、
謝る男だっただろうか？

ごめんね
以蔵さん

ありがとう
以蔵さん

「また
仲良くしてくれるよ」

「うれしいなあ」

(ごめんね。)

(ごめんね。)

(ごめんね。)

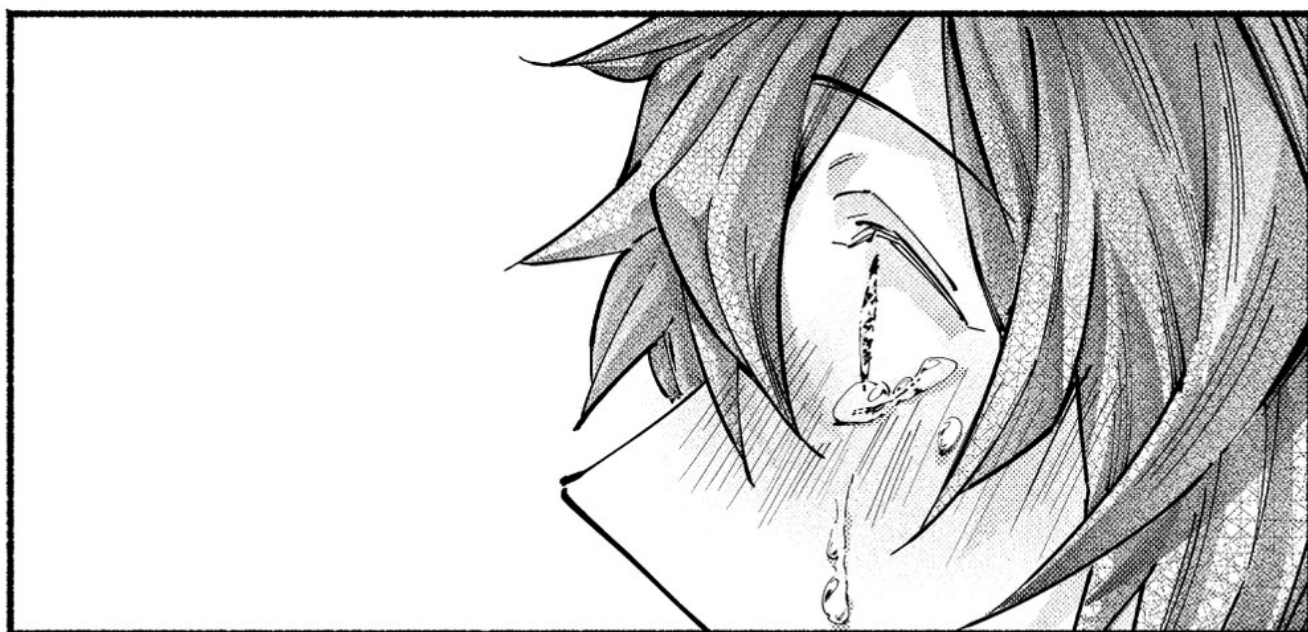
(ごめんね。)

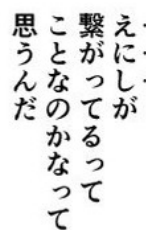
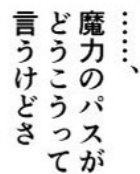
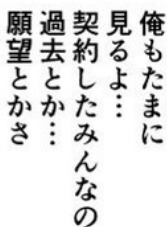


あの

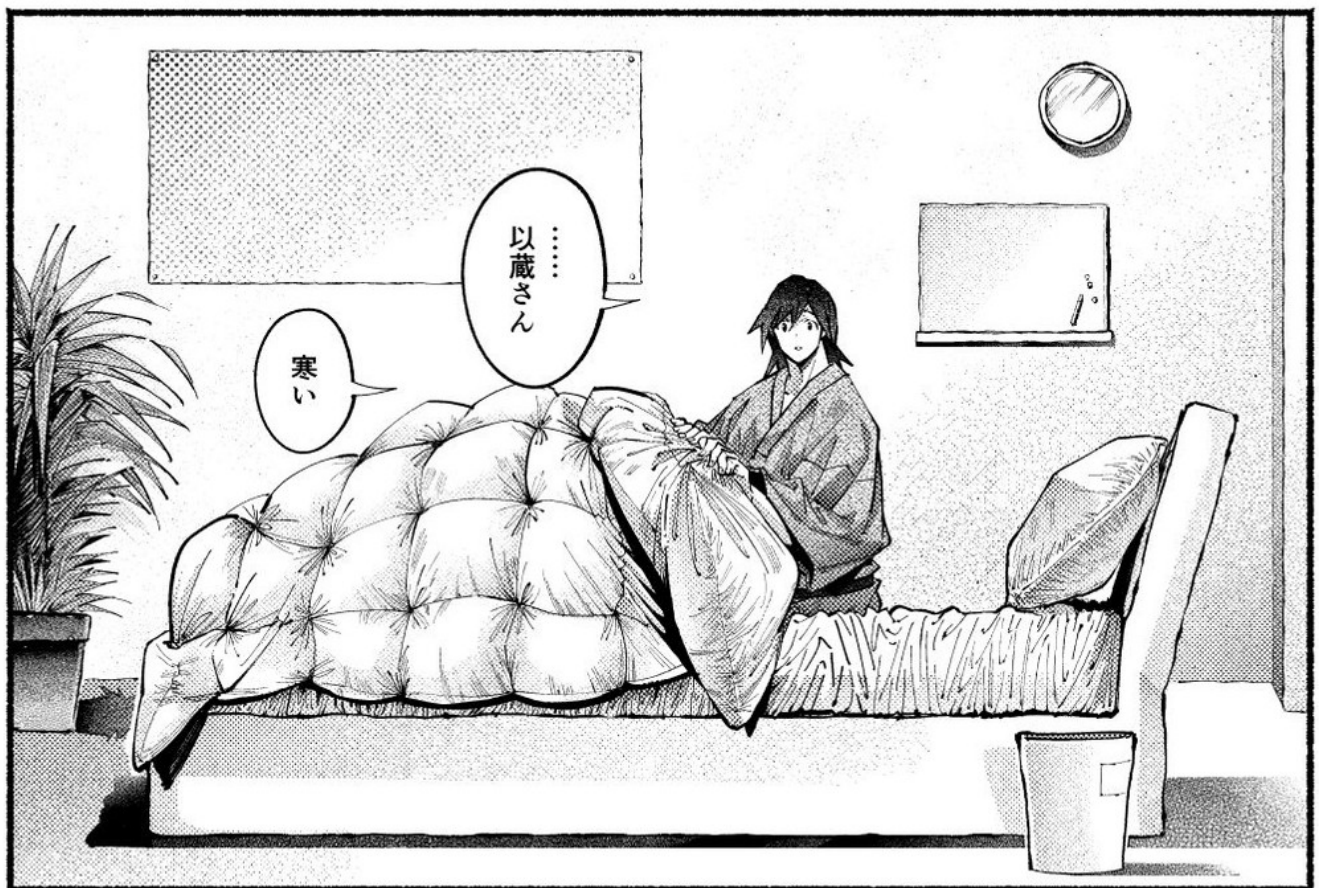
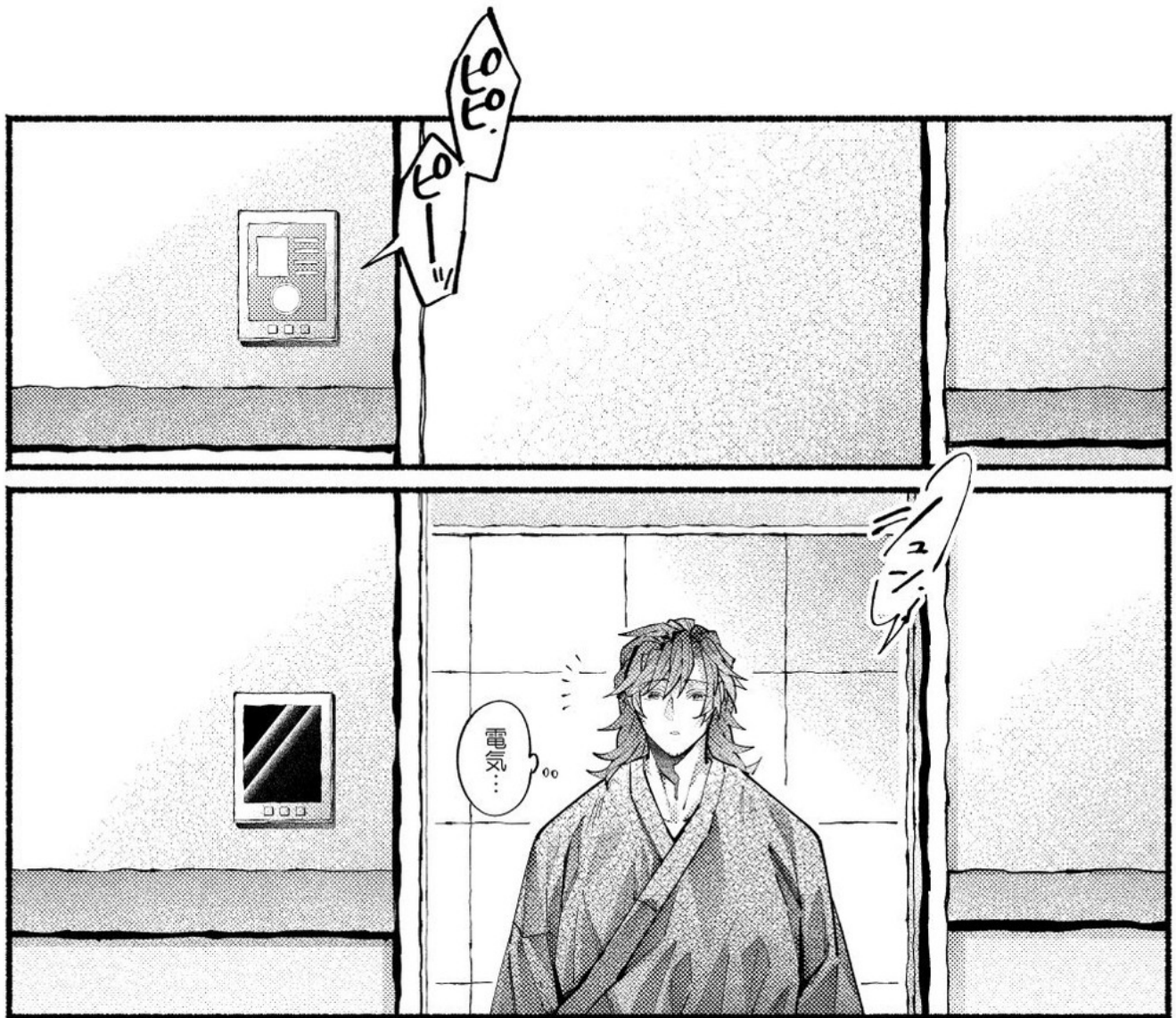
あほたれ
.....





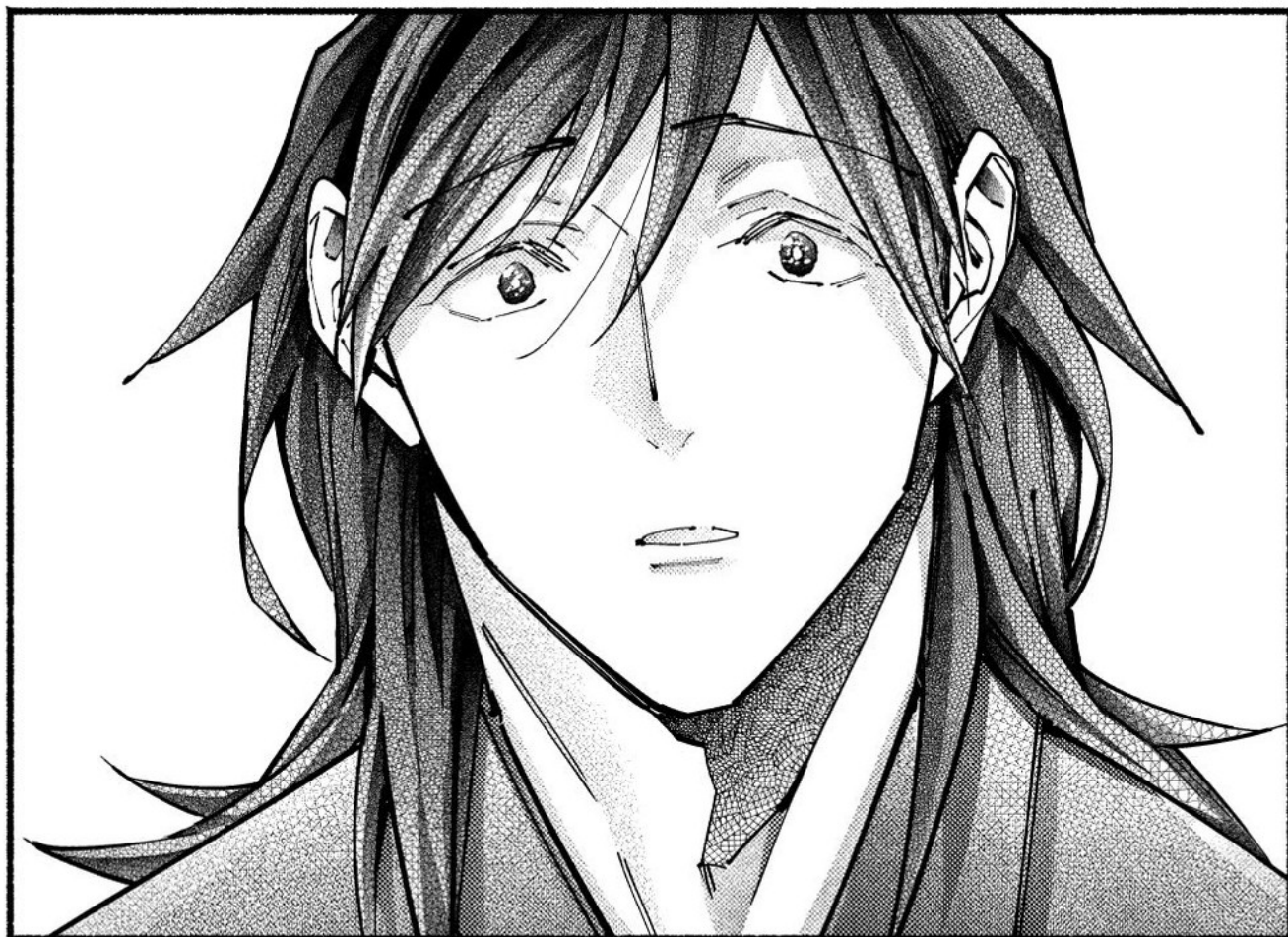














世界中の
誰が……

神さま
仏さまが……
世界が！
おまんを許しても……

わしは許さん



わしだけは……

おまんを 絶対
許さんからな！！





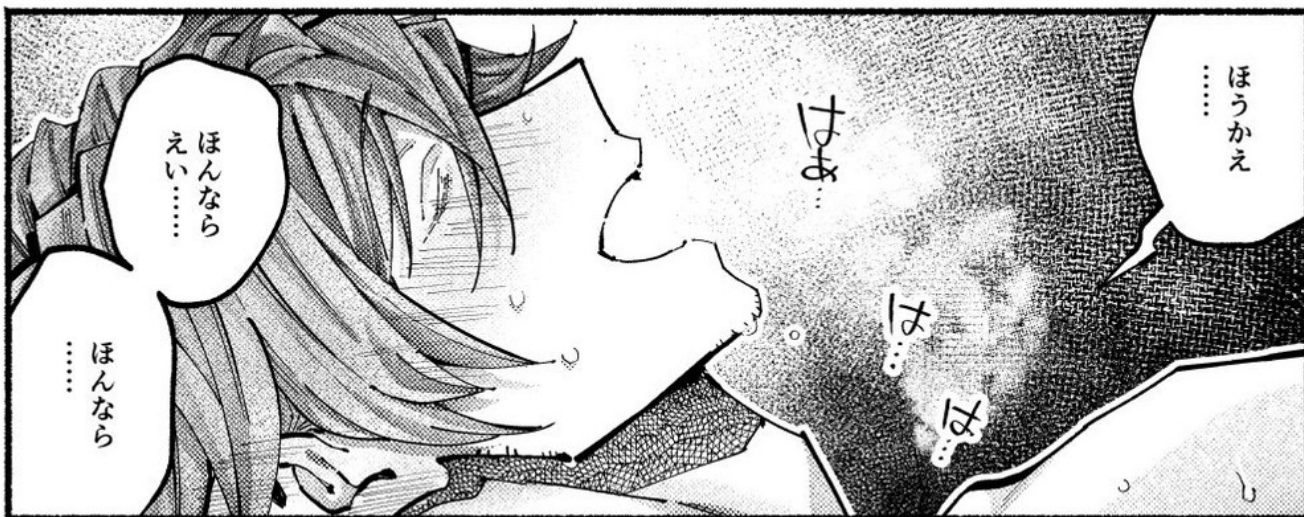


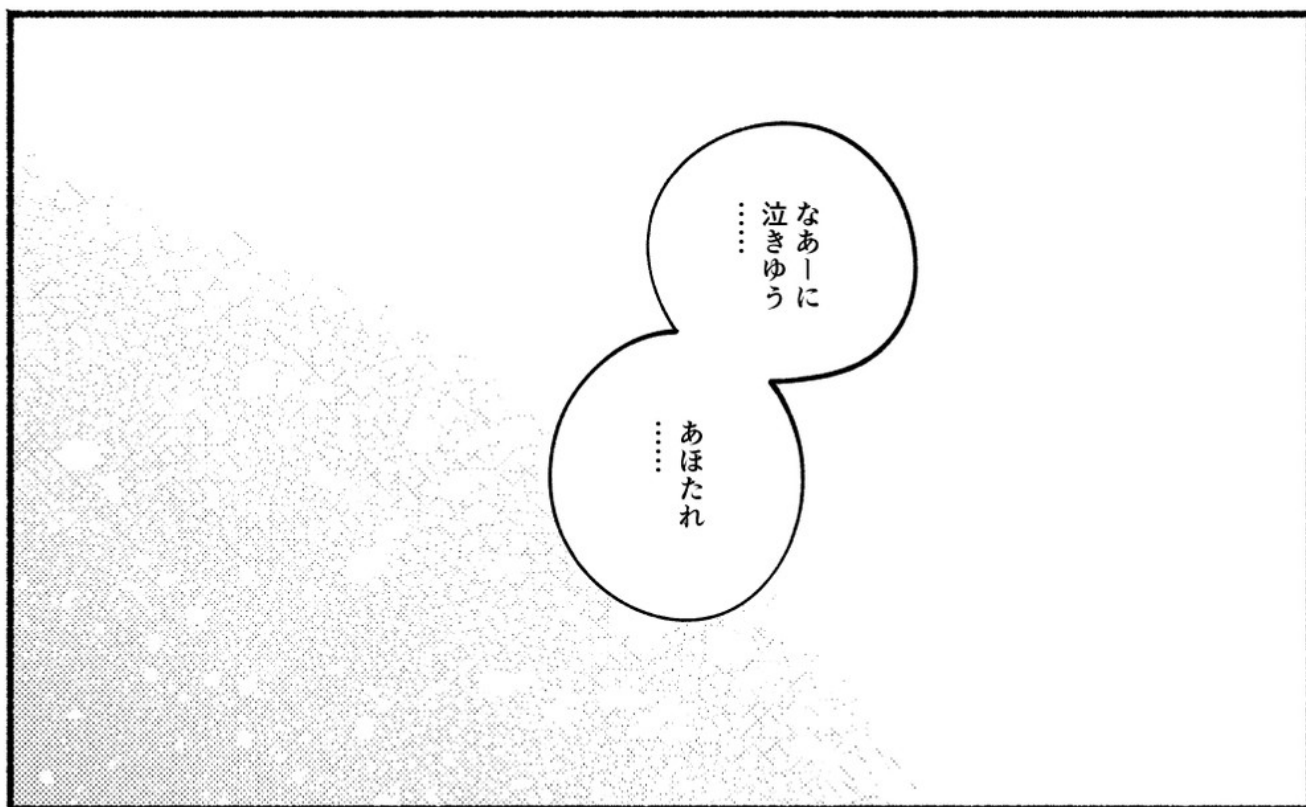


















お待たせして
ごめんね

それじゃあ
食堂に
行きますか

魚 まだ
あるかの
う

おひようさんは
カエル



謝罪の暴君

発行日：2018/10/29

発行者：しゅん太(百十番地区)

連絡先：shunta110da@gmail.com

印刷：booknext様

無断転載・複製・複写・転用、ウェブ上へのアップロード、
またネットオークション・フリマアプリなどでの転売は固く禁じます。
この本は個人的に作成されたファンブックです。
原作者様および全ての著作権元とは一切関係ありません。

※補足：この話の以蔵さんは、お人よしではありません。惚れた相手に甘いだけです。



メッセージフォームです。
ご感想などいただければ、
励みになります。